

令和3年度 都立雪谷高等学校 全日制課程 学校経営計画報告

1 今年度の取組と自己評価

本校は、学問を愛し知性を高めるとともに、体力の向上に努め、健全な心身を養う。また、人権を尊重し協調及び互助の精神の育成と、地域理解を深め、国際的な視野に立って社会に貢献する人間の育成を図る学校を目指す。

(1)「チーム雪谷」

生徒・保護者・同窓会・地域・教職員が一つの“チーム”となって団結し、生徒一人一人にきめ細かな指導を行い、すべての生徒の進路希望を実現できる学校

(2)「自ら学び考え表現する」

生徒一人一人が家庭学習で十分な予習・復習を行い、知的探究心を養い、学習の意義を理解し、自ら学び考え、表現する力を身に付ける学校

(3)「努力の汗を感動の涙に」

生徒全員が本気で学校行事や部活動に取り組み、達成感や成就感を得て、学校と自分自身に誇りをもてる学校

(4)「地域社会に貢献」

地域に根差した教育活動の推進し、奉仕活動や生徒会活動・部活動を通して連携を深め、社会に貢献できる人材を育成する地域に信頼される学校

令和3年度「学校経営計画」 数値目標及び結果については以下のとおりである。

令和3年度 数値目標	令和3年度 数値目標の結果
1 学校運営	1 学校運営
(1) 若手研修学習会 10回以上	(1) 若手研修学習会 3回
(2) 研究授業 20回以上	(2) 研究授業 20回
(3) 校内研修 3回	(3) 校内研修 2回
(4) PDCA会議 3回	(4) PDCA会議 3回
2 学習指導	2 学習指導
(1) 生徒の自主学習時間	(1) 生徒の自主学習時間
ア 第1学年2時間(120分)以上	ア 第1学年 57分
イ 第2学年3時間(180分)以上	イ 第2学年 52分
ウ 第3学年4時間(240分)以上	ウ 第3学年 227分
(2) 長期休業日中の講習 60講座以上	(2) 長期休業日中の講習 講座総数 60講座
(3) 授業満足度 80%以上	(3) 授業満足度 92%
(4) 英語検定(実用英語検定) 準2級以上 80名以上	(4) 英語検定(実用英語検定) 101名
(5) 漢字検定 準2級以上 20名以上	(5) 漢字検定 12名
3 生活指導	3 生活指導
(1) 遅刻生徒(1日あたり) 8人(0.01%)	(1) 遅刻生徒(1日あたり) 7人
(2) 特別指導対象件数 0人	(2) 特別指導対象件数 1人
4 進学指導	4 進学指導
(1) 4年制大学進学実績(現役合格者) 80%以上	(1) 4年制大学進学実績(現役合格者) 93%
(2) 大学入学共通テストの受験者数 90%以上	(2) 大学入学共通テストの受験者数 92.8%
(3) 大学入学共通テスト各教科の平均点 全国平均以上(全科目)	(3) 大学入学共通テスト各教科の平均点 全国平均以上は 9科目 全国平均以下は 10科目

(4) 国公立大学、難関大学合格者数 25名以上 (5) GMARCH合格者数 80名以上 5 特別活動・部活動 (1) 部活動加入率 95%以上 (2) 特別活動満足度 90%以上 (3) 部活動満足度 90%以上 (4) 関東大会以上の大会への参加 4部 6 体力向上 体力テスト合計得点 全国平均以上 7 募集・広報活動 (1) ホームページ更新 250回以上 (2) 応募倍率 推薦 3.0倍以上 学力選抜 1.8倍以上 (3) 学校見学・学校説明会参加者 5000名以上 8 経営企画室経営 第3四半期、予算執行率 90%以上	(4) 国公立大学、難関大学合格者数 16名 (5) GMARCH合格者数 57名 5 特別活動・部活動 (1) 部活動加入率 92.5% (2) 特別活動満足度 86.9% (3) 部活動満足度 93.8% (4) 関東大会以上の大会への参加 2部 6 体力向上 体力テスト合計得点 実施せず 7 募集・広報活動 (1) ホームページ更新 220回 (2) 応募倍率 推薦 3.22倍 学力選抜 1.78倍 (3) 学校見学・学校説明会参加者 2551名 8 経営企画室経営 第3四半期、予算執行率 58%
---	---

数値目標については、

達成できた項目（研究授業、PDCA会議、授業満足度、遅刻生徒（1日あたり）、大学入学共通テストの受験者数、部活動満足度、ホームページ更新、応募倍率）

達成できなかった項目（若手研修学習会、校内研修、生徒の自主学習時間（1・2・3学年）、長期休業日中の講習、特別指導対象件数、部活動加入率、特別活動満足度、関東大会以上の大会への参加、学校見学・学校説明会参加者）であり、新型コロナウイルス感染症対策による教育活動の制限や授業スタイルの変更など、既存の教育方法を生かしつつ、オンラインによる授業を取り入れながら、生徒や教職員の実態、ニーズに合った指導方法を今後も構築する必要がある。今後は、全教職員が数値目標に対する認識を一層深め、学習指導、生活指導や進路指導について、校内の体制を見直し、今後の取組を改善していくことで、来年度以降、数値目標のさらなる達成を図れるよう組織的な学校運営が課題である。

（1）教育活動への取組と自己評価

学校評価アンケートの結果その他から今年度の教育活動を検証していく。

ア 「雪谷高校に入学したことに満足していますか」について、生徒は92.0%（昨年89.3%）、保護者は94.2%（92.9%）が肯定的な回答をしている。

イ 「わかりやすい授業をしていると思いますか」について、肯定的回答をした生徒は82.5%（79.4%）で、保護者は61.9%（67.3%）であり、昨年度より生徒は増加、保護者は減少している。

ウ 「授業の進度・内容・レベルは適切だと思いますか」について、生徒の83.4%（81.8%）、保護者の61.6%（68.5%）が肯定的に回答した。さらに、授業評価アンケートの分析により、改善に向けた取組を実施していく。

エ 「本校の進路に関する情報提供や相談活動は充実していると思いますか」について、生徒の85.6%（84.2%）、保護者の65.7%（68.4%）が肯定的であり、改善傾向にある。進路指導の組織的な充実が浸透してきている。

オ 「本校の生活指導（服装や頭髪等）は適切だと思いますか」の肯定的な回答は、生徒の76.7%（72.0%）、保護者の85.6%（85.1%）であり、組織的な生活指導を進めていることが保護者には理解を得ている。生徒に対しては、日々の指導により、自らが意識し高校生らしい生活習慣が身に付けられるよう指導をしていく。

カ 「本校の学校行事は充実していると思いますか」の肯定的な回答は、生徒の86.9%（68.6%）、保護者の83.4%（67.5%）であり、新型コロナウイルス感染症対策による行事の実施方法を工夫して行ったことから、昨年度は中止、延期により低い評価であったが、理解が得られており、引き続き状況を勘案しながら活動をしていく必要がある。

まとめ 「雪谷高校に入学して良かった」と考え、本校なら「文武両立」が実現可能であるという認識が保護者・生徒の大半に共有されている。部活動指導には概ね満足しており、学習指導や進路指導も充実しているが、さらに難関大学へのチャレンジを含め「希望の進路」を最後まであきらめさせない進路指導へは引き続き改善の必要がある。そのために、学習習慣の定着と進路意識の向上、そして、総合的な探究の時間に行う探究学習指導に向けた取組の実施、自習室の利用、放課後補習、夏期・冬期講習の充実など、教職員が組織的に指導をする体制で、誰から見ても信頼の得られる教育を展開していく。

（2）重点目標への取組と自己評価

ア 授業研究・授業改善

「生徒による授業評価」の結果等に基づいた授業改善策の策定、全教職員による校内研修については、計画的組織的に実施できた。また、発展的な学習を希望する生徒に対し、第2学年で「難関大学トレーニングセンター」を早朝や放課後に実施し、大学入試に向けた実力をつけさせる講習を実施した。今後も引き続き、教科主任会の充実、相互の授業参観、他校の研究授業等への参加、校内研修への積極的な取組をより一層進めていく必要がある。

イ 家庭学習時間の確保と主体的に学習する態度の育成

学ぶ力の育成については、家庭学習時間の確保と主体的に学習する態度（自学自習）を育てること、部活動と学習の両立について部顧問と連携し取り組んだ。早朝自習用の学習プリントはほぼ毎日実施できた。補習・補講については、放課後等を利用し、国語・数学・英語・地歴公民・理科で指導した。

さらに、難関校を目指している生徒の指導の充実のため第2学年と進路指導部が連携し、第2学年から「難関大学トレーニングセンター」を実施した。第1学年の「スタディキャンプ（オンライン）」、夏の全学年希望者対象の「勉強合宿」、第2学年の冬の「受験スタートアップ講習会」など自主的に学ぶ力を向上させる取組を実施した。

さらに、生きる力の育成について、昨年引き続きキャリア教育を通じて実施した。第3学年では、「将来のためのキャリア講座」「芸人から学ぶコミュニケーションのコツ」を実施した。

また、奉仕体験活動を通じて、地域と連携する中で社会貢献を学ばせ、平成27年度からの土曜授業と部活動、補習・補講の両立を考慮しつつ、高校生活3年間を見通した学校全体での組織的な取組をより一層強化する必要がある。

ウ 規範意識とルール・マナー

規範意識とマナーについては、「雪谷高校生活指導統一基準」を決定し、組織的で明確な生活指導を実施した。自転車のマナーに対する苦情も減少し、地域清掃などを通じ、地域からの評判はむしろ向上している。「雪谷SNSルール」や「身に付けさせる規範意識」を作成し、適切な規範意識の醸成を行った。メンタル面が不安定な生徒への対応として、学年担任や生活指導部、養護教諭、スクールカウンセラーを中心に、家庭との連携を密に組織的に丁寧な対応を行った。

エ 本校の良さや教育活動を積極的にPR

本校の良さや教育活動を積極的にPRするために、本校の教育活動を整理し、全教職員が学校像を共有し、1つの流れとして3年間を説明できるようにしたことで、一貫性をもった広報活動ができた。同時に、生徒会生徒を取り入れ、生徒の主体性を生かした学校説明会を実施した。説明会内で、部活動生徒による全校応援（受験生応援版）を実施し、生徒の母校愛の醸成に繋がった。学校見学会・学校説明会等の参加者は新型コロナウイルス感染症対策により、来場数は2551名であった。

推薦受検倍率は、3.13倍から3.22倍に増加し、学力検査受検倍率は、1.49倍から1.78倍に増加した。今後も広報活動をさらに工夫改善し、より一層充実させていく。

オ 保護者・同窓会・地域との連携の強化

今年度は、書面や電子メールを活用し、昨年度同様、関係各方面との連携を密に取り、学校の教育活動の情報を共有する機会を多くした。進路指導部が1・2学年対象に、3年生の大学進学内定者や卒業生による講演を聴く機会を企画した。

カ 危機管理能力の向上

年4回の避難訓練を実施し、東京防災や東京マイ・タイムラインを活用した安全学習および安全指導により災害時の危機管理能力を向上させた。また、地域と連携した防災訓練を実施し、消防署、大田区、自治会の協力により今後考えられる災害の対応を検討した。

2 次年度以降の課題と対応策

本校生徒の良さを活かしながら、生徒の伸びる可能性を信じ、教職員全員が生徒の学力向上、進路実現のために取り組んで行く必要がある。また、キャリア教育を充実させ、生徒一人一人の「生きる力」を身に付けさせる指導を行っていくことが重要である。よって次の点に重点的に取り組む。

(1) 学力の向上（家庭学習の時間を確保させる指導、朝学習の実施、大学入試対応の授業の充実と学力の差に応じたきめ細かい指導、教員相互の授業参観や校内研修の実施）

令和2年度より「Society5.0に向けた学習方法研究校」の指定を受け、教員研修、オンラインを活用した研究授業を若手教員全員及び、プロジェクトチームの委員を中心に各教科で実施したことにより、ICT機器を活用し課題解決力、想像力、協働力、情報活用能力などの資質・能力の育成を図るための授業・指導案の作成をしている。さらに、教員研修の実施により、オンラインを活用した授業等のより一層の充実に向けて、学校全体で積極的に取り組み、学力の向上を図る。

(2) 「希望の進路」の実現に向けて、キャリア教育の充実と生きる力の育成を実施する。具体的には外部講師による講演の充実、週休日や長期休業日等における補習の拡大、大学との連携を入学時の早い段階から学年・教科や進路部を中心に組織的に計画的に実施する。また、「人間と社会」を通して、全人的な人間の育成を図る。

(3) 「文武両立」を推進する中で、自習室の活用や、部単位での勉強会をさらに拡大・充実させていく。部活動については、顧問と部活動指導員や外部指導員の一層の連携を図る。自習室や講習・補習を充実させ、学習と部活動との両立を図る。

(4) 「生活指導統一基準」規範意識やマナーを高める指導（全教員の協力体制による身だしなみ指導、交通ルールや自転車のマナーを守る指導、「雪谷SNSルール」を基に携帯・スマホ等のマナー指導、部活動を中心とした挨拶・地域清掃運動）を充実させ組織的定期的実施する。

(5) ホームページや学年通信等により、生徒・保護者だけでなく、PTAや同窓会と連携し、生徒のさまざまな活躍や本校の良さを情報発信し、教育活動の充実をより一層進めていく。

(6) 学校運営連絡協議会で学校運営状況報告を行い、改善に向けた意見を取りまとめる。